

こいた 小板まきばの里通信 Vol 15.1

～高鳴きするモズの姿を探してみよう～

小板まきばの里へようこそ。小板まきばの里は西中国山地国定公園内の南に深入山、北に臥竜山で挟まれた標高750mの山里、小板集落の一角にあります。2018年11月にこの地に移住してきたスタッフ2名が60年以上前に住人がいなくなり荒地と化した耕作放棄地を、この土地の自然の恵みを活用しながら手作りで開拓しています。このキャンプ場ならではの豊かな自然と波乱万丈の開拓現場の探索をお楽しみください。

■キャンプ場周辺で秋の植物を探索しよう！



アキチョウジ



マムシグサ



ゴマナ



リンドウ



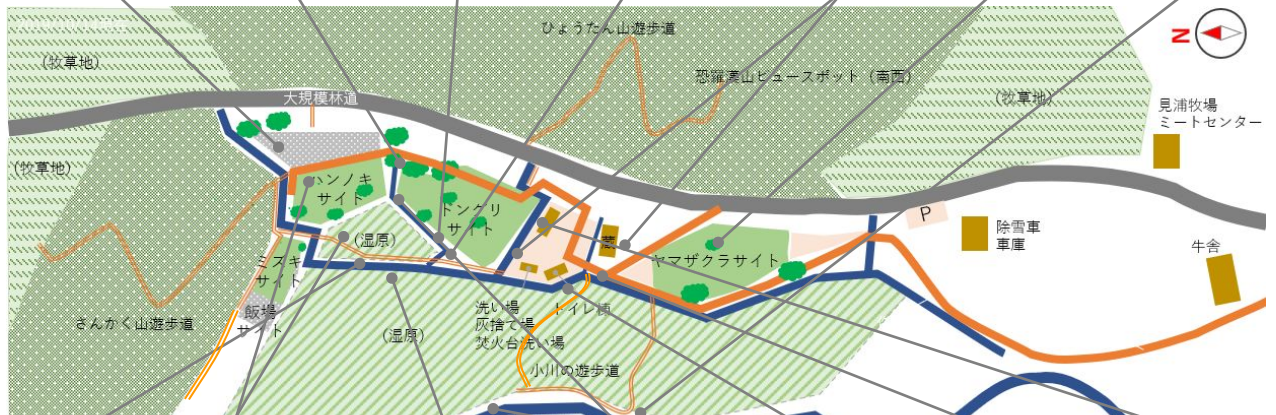
アキノ
キリンソウ



ズミ



ハナウド



イヌタデ



ミゾパン/
アキノウナギツカミ



ママコノ
シリヌグイ



サワフタギ



ヨメナ



アラゲ
ナツハゼ



シロヨメナ

■里山の自然観察 ～高鳴きするモズの姿を探してみよう～

9月終わりから10月はじめに木の葉が色づきはじめると、「キチキチキチキチ」と甲高い鳥の鳴き声が聞こえてきます。声の主を探すと、見晴らしの良いところで鳴く、少し大き目の丸い頭が愛らしいモズの姿が見つかります。この甲高い声は「高鳴き」といわれ、縄張り争いの時の鳴き方です。モズは秋から冬にかけて1羽で縄張りを持つのですが、それを獲得するための必死の戦いが秋のこの時期に繰り広げられるのです。縄張り争いの戦いは、高鳴きだけで勝負が決するときもあれば、取っ組み合いの激しいバトルになることもあるのだとか。

なお、地域によっては「モズの高啼き七十五日」といい、モズの高鳴きを初めて聞いてから75日目に霜が降りだすとして、農作業の収穫や冬支度の目安にされています。

モズの縄張り争いが終わるころ、山里の秋も終わりを迎えます。

高鳴きで秋の深まりを教えてくれるモズの姿をさがしてみましよう。